

平成 30 年度 第 8 期ふくまる教志塾スタート

ふくまる教師塾がスタートしました

平成 30 年度ふくまる教志塾は、4 月 1 日から 5 月 8 日の間、塾生の募集受付を行い、37 名の大学生や社会人からの申し込みがありました。

5 月 12 日（土）に面接を行い、全員を池田ふくまる教志塾の第 8 期塾生として認定しました。

そのうちの 30 名は、毎月のセミナーに加え、市内の各小中学校及び義務教育学校で教職員や子どもたちと直接かかわりながら、現場実習生として学校の仕事を学んでもらいます。また、セミナーだけに参加する聴講生は 5 名、学校現場で講師として働いている特別聴講生は 2 名です。

「元気」で「やる気」に満ち、「本気」で子どもたちにぶつかっていくような、意欲溢れる先生の誕生を期待し、今年度のふくまる教志塾をスタートさせたいと思います。

.....

第 1 回「ふくまる夢たまごセミナー（開塾式）」

日時 5 月 23 日（水）18：00～20：00

場所 池田市庁舎 7 階大会議室

内容 ①開塾の挨拶……田淵教育長

② 記念講演

演題 「教師をめざすみなさんへ」

講師 岡田 耕治 先生（大阪教育大学教授）

③ ふくまる教志塾概要説明

④閉会

今年度最初の「第 1 回ふくまる夢たまごセミナー（開塾式）」には、特別聴講生を含む 34 名の塾生が参加しました。

34 人の塾生のみなさんをエレベーターホールで出迎えた「ふくまる塾長」は田淵教育長とともに開塾式に出席し、夢に溢れた先生のたまごである塾生のみなさんを見守っていただきました。

はじめに、田淵教育長から「ふくまる教志塾でしっかり学び、池田のことをよく知り、池田に愛着を持ってほしい。そして、将来は立派な教師になり、是非、池田市に勤め、活躍してくれることを期待している。」と、励ましの言葉がありました。

塾生のみなさんは、身の引き締まる思いで開塾式に臨んだことだと思います。



その後の記念講演では、岡田耕治先生（大阪教育大学教授）に「教師をめざすみなさんへ」という演題でお話をさせていただきました。

岡田先生は、大阪府岬町の出身で、地元の中学校に国語の教師として赴任された後、教育委員会、校長を歴任され、平成 27 年 3 月、38 年の教師生活を終えられました。その後、大阪教育大学教授として、現在に至っています。

岡田先生が所属しておられる教職教育研究センターでは、先生の豊かで優れた現場経験を生かし、教育現場と学生をつなぐ橋渡し役として活躍されており、「ふくまる教志塾」の開塾にふさわしいお話を聞くことができました。

以下、岡田先生が話された講演の内容（ポイント）を、塾生の「セミナー受講の記録」から抜粋しました。



「教師をめざすみなさんへ」

行為の中の省察 (reflection-in-action)

- ・ 行動しながら、常にそれを省みる。教師はその実践こそが大事。
- ・ 過去は変えられない。今の自分を変えるのは自分だけ。
- ・ 振り返りはすぐに。

KP 法によるプレゼン

- ・紙芝居プレゼンテーション法
- ・いかに子どもの視線をこちらに向けさせ、脳に印象付けるか。
- ・視線を誘導し、一人ひとりとアイコンタクトをとり、自由に順番を変える。
- ・パワーポイントだけでなく、模造紙も使ってみる。

左半分で聞く（カウンセリングの極意）

- ・耳の右半分は遊ばせる
- ・相手が何を考えているのか・・・？と創造する。（ペアで実践）
- ・椅子の角度で話しやすさが変わる。



アイコンタクト（プレゼンの極意）

- ・一人ひとりの目を見て伝える。
- ・授業の始まりは全員とアイコンタクトをとる。
- ・子どもからのアイコンタクトも意識する。
- ・見てもらっている、認められているという安心感。
- ・アイコンタクトを使った「音ボールゲーム」

Yes and・・・（肯定することの力）

- ・相手への返事に「いいね！ でも・・・（Yes but・・・）」ではなく、「いいね！ じゃあ（Yes and・・・）」と肯定し、提案型に。
- ・相手を肯定する姿勢が大事。
- ・社会に出て行く子どもたちに必要な力。

インプロ（即興）

- ・授業はその場で変えられるもの。
- ・子どもから学び、その都度、子どもに伝えるべきこと、発問を考える教師をめざそう。

等々

（Nさん、Wさんの「セミナーの記録」より抜粋）

開塾式直後ということもあり、緊張のうちに始まった記念講演でしたが、岡田先生は、話の節々で塾生に席の移動をさせたり、キーワードとなる言葉の意味を体で感じる活動を取り入れたりして、塾生のみなさんは、体も心もほぐれ、楽しんで講義を受けることができたようです。



岡田先生は、最後に、池田市が取り組んでいる「小中一貫教育」「低学年からの英語教育」「プログラミング教育をはじめとする ICT 教育」、それぞれの推進を評価され、池田の教育のベースは「子どもに学ぶ」ことであり、これが「教育のまち池田」といわれる所以であると締めくくっていただきました。

岡田先生の情熱のこもったお話に多くの塾生のみなさんは、真剣に聞き入り、考えたようです。

講演会終了後は、今年度のふくまる教志塾の概要と提出書類等の説明があり、閉会となりました。

こうして、不安と緊張の中にも、やる気と活気に満ちた第1回ふくまる夢たまごセミナー（開塾式）を終えることができました。



< 塾生の感想より >

○ 開塾式ということもあり、とても緊張していたのですが、（話の）間に活動があったので、リラックスをして受けることができました。本日来てくださった岡田耕治先生の話は、とても参考になることが多く、勉強になりました。特に、KP法は、今後、自分が教員になったとき、使えると思いました。

しかし、即興力が自分にはないので、これから少しずつでもその力をつけていけるよう、常日頃から心がけていこうと思いました。

その他にも、プレゼンの極意やカウンセリングの極意など、自分が知らないことを聞くことができ、とてもよかったです。これから、ふくまる教志塾の塾生として、頑張っていこうと思います。

○ 今日学んだことは、大きく3点あります。

1点目は、「目」で伝えることの大切さです。授業を始める際、つい教材だけを見てしまいがちですが、子ども全員と目を合わせて安心感や一体感を共有することを忘れないようにしたいです。

2点目は、「行為の中の省察」です。何か行動した際、すぐに振り返る習慣やすぐに対応する力、改善する姿勢をもっと身につけていく必要があると学びました。省察することこそ、自分を変える力になると実感しました。

3点目は、「肯定する力」です。普段の会話ややり取りを意識していくことで、今後の子どもとの関係づくりにつながります。

以上の3点を学びました。この学びをこれからの自分の成長につなげていきます。

○ 今日は、教師になるに当たって、とても大切なことを勉強させていただきました。

まず、“行為の中の省察”が非常に大切だと感じました。授業をしながら、またその直後、自分の行為はどうだったか、まわりの様子はどうであったのかを考えることが大切ということです。なかなかその場で考えていくことは難しいとは思いますが、現場に行ったときに子どもたちの反応や様子を感じたいと思います。

また、様々な「極意」についてですが、特に、アイコンタクトの大切さを改めて考えました。毎日、子どもたち一人ひとりの目をしっかり見て、信頼関係を築けるようにしていきたいです。

今日学んだことを実習でも生かしていきたいです。

○ このようなセミナーに参加させていただいたことが初めてだったので、少し緊張しながら参加させていただきました。「カウンセリングの極意」と「プレゼンの極意」について主にお話しされていて、今まで考えたことのなかった内容で、とても新鮮でした。実際に、「左半分で聞く」「音ボー

ル」「Yes and」などを学んだ後に体験して、身をもって学ぶことができた
気がします。特に、「音ボール」では、アイコンタクトをしながら効果音
をつけて相手に渡すことによって、少し照れながらも、初対面なのに笑顔
がたくさんあって、とても良い雰囲気になったのが印象的でした。

次回からのセミナーも気を引き締めて、参加したいと思っています。